



山形県庄内 石原莞爾先生墓参ツアー  
隆久(ハピネス)グループ 感想文集



期間:平成20年8月15日(金)~17日(日)



石原莞爾平和思想研究会  
会報「永久平和」臨時号

# あれから60年 どの瞬間も 感動と感激で 至福の極み

隆久 昌子

北海道の片田舎で、石原莞爾先生の世界観、歴史観、宗教観について学び合う会が生まれました。青年・大場信夫さんが中心で、時には渡辺正先輩もご出席いただいて、集まりは熱く広がりました。父母はこの会に深く関わり、参加初日から、我が家で、子供会を主宰していた10歳の私を相手に復習を兼ねた(?)伝達会が続きました。

激しい赤化運動の中、毎日ストライキ実行側と阻止する側の流血の闘いで、子供達までが二派三派に分かれて睨み合う、貧しい悲しい時代でしたから...。永久平和、戦争の終滅は、鮮烈な衝撃を与えてくれました。

世界を統一しうる政治力 物資の充足 思想・信仰の統一

時代の推移に合わせて平和完成の三条件の確立のために、自分のなすべきことは何か? 今、どうあるべきか? 常に心を離れません。

平和世界への革新は人間性の革新(真心・仁愛徳の回復)の徹底が基であり、都市解体、農工一体、簡素生活の三原則によって搾取と戦争のない人類次代文化の先駆けとなり、国家の革新、アジアの革新(道義による国家連合)と最終改革の完成に向かう!



なんて素晴らしい指針でしょう。魂の躍動を感じ、私の生きる道を示していただきました。爾来、寝ても覚めてもこの道中に学び、働き、守られ、導かれ、支えられ、鍛えられて、大感謝の精進を続けて60年になりました。無能者の時間は結実少なく猛省ばかりですが...

お蔭様で、素晴らしい、誇らしい、多くの熱い仲間が出来ました。母、紺谷キミ(5年前他界)が常に先輩同志として励ましてくれたように、今、50人を越える同心の仲間たちが、共に活動してくれ、数百人の強い理解者・支援者が事に応じてくれます。

今回の墓参と武田先生の特別研修に参加させていただいた15人は、縁と運の強さで選ばれた一部の仲間でしたが、参加できなかった人たちも「報告を聞いて燃えている。意識は共にあったし、これからも共に頑張る」と心を燃やして各自の決意をファックスしてくれました。どうぞ大先輩諸氏の皆様

に受け入れていただき、今後の具体的実践活動にもご指導をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

合掌

## 2 度目の墓参が私に与えてくれたもの

紺谷 和久

19年前(昭和63年=1989年)の8月15日、山形県鶴岡で「石原莞爾生誕百年祭」が開催されました。母を中心とする平和運動の仲間約20名と共に、石原莞爾先生のお墓を初めて訪れた時、不思議なほど懐かしさ親しさを感じ、その場にいた全員が優しく和やかな気持ちになり、自然と涙するほど感動したことを、今でもはっきり覚えています。

今回、石原莞爾生誕120年(没後60年)という貴重なタイミングを来年に控えたこの年に、再び母と、平和運動の同志と共に墓参させていただく機会を得て、19年前の感動がさらに強く、濃く、深く刻まれました。同時に、かつての協和会の『宣言』を貫く意志と、石原莞爾平和思想研究会の活動や生誕120年祭実行委員としての事業遂行におけるやる気と覚悟が、いっそう明確になりました。

ハピネス(私たちが母・隆久昌子を中心として実践&学習している平和運動のグループ名)が企画して実施された「庄内・遊佐特別ツアー」(お盆の帰省で大混雑が予想されていたにもかかわらず、参加者全員の交通&宿泊の手配が叶ったことにも特別の意味があった)には全員で15名が参加しました。ツアー3日間、どの一瞬も、石原平和運動ゆかりの方々のご尽力と祈り、そして神仏の加護なくしてはあり得ない「ドラマの連続」でした。

なんといっても最初の2日間、私達のために武田邦太郎先生を西浜公民館に独り占めできたことが大ドラマでした。武田先生の力強いお話の中で、『永久平和の実現は2015~2020年のこれから数年以内に迫っている!』というお言葉(肉声)が、私の抱いていた抽象的な実現イメージを一新させました。公開を目前に控えた前売り券を手渡されたようなリアル感が高まり、平和運動の一員としてこの時代を生きる真剣さも数段引き上げられました。

また、私のツアー参加目的のひとつに、「都市解体・農工一体・簡素生活の実践についてヒントを掴むこと」がありました。2日目に簡素生活や食糧問題について話題が展開された折に、農地開拓のプロ・農政の天才である武田先生が、『小麦の生産効率を飛躍的に高めるためには、種の選び方、そしてそ

の種を蒔くタイミングが最も重要なのです』という極意を語られました。その時に私は、自分の人生における理想的な収穫(永久平和の実現)のために、その「種」(目的)を選ぶ精度(価値観)を極限まで高め、日々の真剣な「タイミング」(行動や発言)を間違わぬことが重要であることを、気づかせていただきました。まさにガツーン!とやられた感じでした。

実は、冒頭でも述べたように、「永久平和の実現」は母の願望であり、祖母から受け継がれた我が家の命題でした。祖母も母も、人生を一貫して「昭和革新論」を実践してきました。子供のころから石原将軍の写真を拝み、20年以上前から石原平和思想の勉強会に参加し、10年以上前から法華経を読み始め、その中で様々な人間的な成長を得られたと感謝しています。始めの頃は「なんとなくできたらいいな」と思っていた平和運動が、気付くと学びの中で「やらねばならない」という使命感と、「きっと成る」という期待感も膨らんできました。

今回の墓参により、私の中でこれまでの積み重ねてきた信念がより強固な土台となり、「永久平和は必ず実現する」という確信にまで高まりました。また、自らの心身を積極的な行動へと駆り立てる熱意も与えていただきました。まるで昭和24年の二十万人が大集結した東亜連盟同志会集会の場に「そうだ、私もあの場にいたぞ!」と思い込んでしまうほどに、歡喜・興奮しています。



2日目の夕方は鶴岡支部の志賀さんと宿泊会場でお会いする機会を得ました。私は大好きな温泉を横目に、つい感動と興奮の報告と相談に夢中になり、湯冷めする始末。「今回の墓参ツアーの報告レポートを、会報の臨時号として出させてよ!」、「鈴木和子さんも撮影に協力した生前の石原莞爾先生が収められている伝説のトーキー(16ミリ映画)をDVDで復刻させようよ!」、「生誕120年祭実行委員も早く立ち上げようよ!」など、夕食の最中も母や志賀さん、同志と共に熱く語り合いました。

菅原良さんが毎日清掃・整備してくださり、鈴木和子さんがきれいに花を飾ってくださり、武田先生は2日間みっちりお付き合いました。娘の田中さんが誘導・案内してくださり、歌川さんが武田農法の素晴らしさを語り、志賀さんが宿泊や交通の手配などにご協力くださり、地元の方々が心づくしの歓迎で迎えてくださいました。そして母が、薩摩さんが、青木さんが、多くの同志と一緒に参加してくれたおかげで、この感激・感動・感謝があります。本当にありがとうございます。

私はさっそく9月の石原平和研の会合で、今回の墓参を通じて気付かせていただいたこと、感じさせていただいたこと、やりたいと心に描いたことを提案させていただき、母から伝えていただいた平和運動（永久平和の実現）を大きく展開するタイミングである生誕120年祭を成功させ、共に実現を喜び感謝しあう仲間を増やして、いっそう大きな幸せを噛みしめたいと思いました。

今、凄くワクワクしています。



紺谷 志歩

## 私たちの平和運動は幸せ運動

義母（隆久昌子）が神楽坂に建てたお墓には、「世界の絶対平和と 全ての人の完全幸福を 常住坐臥 祈り続けて...」と刻まれています。

「ああ～、しあわせ！」、「ありがたいわね～」、「運が好いのよ！」、「頑張らなくちゃ～」、「大丈夫、大丈夫」...。怪我をしても、忙しすぎて徹夜が続いても、義母の口癖はいつも同じ。一日に何度も繰り返します。本当に幸せそうに、嬉しそうに...

人が幸せに生きる、健康に生きることは、権利ではなくて義務なのよね！

人間が本来持っている能力や可能性を100%発揮できなきゃ勿体ないでしょ！細胞の一つ一つが健康でこそ臓器も正常に働かし、健康なら心の安らぎも得られて、豊かな発想も生まれるでしょ！地球市民の一人として、愛される家族の一人として、義務と責任は果たさなければね！

栄養のこと、色や香りの働きや力のこと、思考と言葉、祈りのもたらす不思議。さりげない義母の言葉はいつも耳あたりが良く、気軽に「そうですね」と聞いてしまうのですが、後になってその奥が何層にも深く濃いことに気付かされます。

今回、石原莞爾先生の墓前で手を合わせ、お題目を3回唱えると、清らかで神聖な気持ち、謙虚な感謝の気持ち、優しく素直な気持ちで崇高な洗礼を受けた実感を味わうことができました。義母の口癖が、私の本心からの言葉として、胸の中から湧きあがりました。

武田先生のご講義「永久平和実現のための国家連合」は、静かに私の心の奥に染み透りました。真心で、深い理解と道義による実践が新たな道を開く

...と。生活改革、簡素生活で、人間磨きを急ぎます。

庄内・遊佐の西浜公民館で、石原先生の教えを实践された先輩の皆様にお話を伺うチャンスに恵まれました。たくさんの具体的な気付きや学びもいただきました。一番の驚きは、鈴木和子さん、菅原さん、歌川さんの若さでした。信念を持ち、使命に燃えて志し高く生きる人の効用でしょうか？ 背筋もピシッと通って、長時間の正座も揺るがず、お肌も、お声も、お話の中身の濃さも...凄い！ 「信仰とは実行すること。信じるのがすべて。貧しくとも幸せでした。」鈴木さんのシンプルでありながら力強いお言葉に、生き方の手本を示していただいた気がしました。

主人（和久）は、私（志歩）をその名の通りに運命の伴侶と選んでくれて13年目。「永久平和」実現の道を志し歩み続ける二人として、誓いを新たに深め合いました。



## 石原莞爾墓参ツアーに参加して

青木 隆志

私たちは石原莞爾平和思想研究会の会員として、より深く中身を理解しようという意図で毎月1～2回、同志がわざわざ大阪からも集まり勉強会を開いています。会場は東京・神楽坂のハピネスで、テキストとして、この勉強会の主宰であるハピネスの隆久代表が、武田邦太郎先生の御協力もいただいて昨年、勉強会の同志のために復刻した「昭和革新論～永久平和への道しるべ～第四版」、「石原莞爾撰 日蓮聖人御書要文」、「石原莞爾先生のお言葉より 日蓮教」の3冊に、宮沢賢治の「国訳妙法蓮華経」も勉強会のために特別に復刻を許され使用しています。

その勉強会の中で今から19年前にあった生誕100周年の墓参ツアーの素晴らしかった話は度々話題に上がり皆の期待感がどんどん高まって、遂に7月9日の勉強会で、隆久代表が武田先生と連絡、その場で快諾いただいて急遽、墓参ツアーをしましょうということになりました。

墓参の事、武田先生との貴重なお時間の過ごし方などツアーの中身は、隆久代表が武田先生と直接連絡くださって、それはすごい内容になると期待が高まりました。また、このお盆の最中で帰省ラッシュ、更には海水浴シーズンの真っ只中で、ツアーの交通や宿泊など、東京・大阪・和歌山からの参加総勢15名のツアー手配も、平和研の志賀明彦さんからたくさんのサポー

トをいただき幸運にもスムーズに進み、更に、現地では鈴木和子さんが特別セミナー会場の公民館の予約や、会場設営、当日の細やかなおもてなしの手配までして下さり本当に感謝でした。

私はその喜びの中でこの自分の意図を是非、自分の子供にも伝えたいという思いに妻も一緒に同調して、今若干4歳の息子と一緒に参加希望を出しました。妻も私の志を分っているから、息子のいろいろな成長過程での不安や課題はありましたが、これもまた素晴らしいチャンスということでもうけとめてくれました。これについては妻から報告させていただきます。ツアー参加の感動報告は多く寄せられているので、行程の概略は以下の通りです。

初日8月15日(金)午後、庄内空港着、バスにて遊佐へ移動 14時頃、道の駅「鳥海」にて武田先生とお嬢様のお出迎えをいただきました。そのまま武田先生自らのお導きで新旧墓参。墓参後は西浜公民館で武田先生特別セミナー 18時半、酒田屋旅館(日本海に面した絶景の温泉宿)日本海の海の幸、特別に旬の岩牡蠣などを堪能。その後は大部屋に集合して時を忘れて夜更けまで語り合いました。

翌日16日(金)9時半、特別セミナーの続き(同会場)武田先生より教本として「永久平和と東亜国家連合」を頂戴し特別講座を受けることができました。2日間のセミナーには鈴木和子さん、菅原さん、歌川さんが御同席くださり当時の数々のドラマをリアルに語って下さいました。15時、セミナー終了。全員でお礼と決意表明そして別れを惜しみつつ記念撮影。バスで山居倉庫、山形米博物館見学 60kgの米俵を担いだ人も。17時、なの花温泉田田の宿 平和研の志賀明彦さんの訪問を受け、温泉の中や、夕食時にも来年の石原將軍生誕120年に向けて企画など語り合い、参加メンバーは自分のテーマを持って参加レポートを作成。

最終日17日(日)午前、各自のレポートを基にミーティング宿泊施設内にある道の駅で地元の朝獲野菜など購入。昼食後、庄内空港へバスで移動 14時、庄内空港発帰路につきました。

15日午前中まで庄内地方は豪雨で道路は一部通行止め、その影響で当日担当運転手も急遽交代となりましたが、我々が到着した午後は快晴で、ツアー中は好天に恵まれ、全くその影響を受けませんでした。なにもかもが天のお導きで支えられ守られてきました。



ツアー中の感激・感動の中で、至らぬ点、反省も数多くありましたが、自

分と家族の平和運動の最高のスタートになったと感謝の気持ちで一杯です。そして来年は、生誕120周年、没後60年と大きな節目を迎えることとなります。今回参加できなかった仲間も加わってどんなツアーにイベントになるのか、「永久平和」の達成に向け心燃やして、より一層、高めていけるように妻と息子とそして仲間たちと語り合い、実生活と仕事を通して実践を続けていく決意です。どうもありがとうございました。

## 石原将軍墓参ツアーに家族と参加させていただいて

青木 美幸

今回このツアーに主人と息子と3人で一緒に参加させていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。

石原莞爾平和思想勉強会に毎月参加している主人から、7月の勉強会のあとにこのツアーに私も息子も行かせていただけるように頼んできたと聞いた時本当に嬉しかったです。この勉強会は夜の開催で、4歳の息子の母である私は残念ながら参加できませんが、出席している風当さんや太田さんからも「言葉ではとても言えないけど、とにかくすごい」といつも聞いていました。

出発前、息子に「お父さんの仕事をお手伝いするの」と相談し息子も一人前扱いされたと感じ「いいよ」と付き合ってくれました。実際には飛行機はやはり初めての体験ということもあり、どうもこわかったらしく私たちは工夫しながら、自分のことも律し、家族3人で目指すところへ向かっていくという課題を楽しく受けながらツアーに参加させていただきました。

そして、本当に、本当に、4歳の息子の変化は予想以上でした。苦手だった飛行機も見事に克服し、初めての体験への不安感も大いなるプログラムの中で皆様から見守られている大きな愛につつまれて解けていきました。

一日目の石原将軍の墓前ではとても清らかで、気持ちが安らぐ感じがしました。その波動を感じているお陰か、4歳の息子は石原将軍のお墓の前できちっと頭を下げ、親がもういいよというまで、手を合わせて集中していました。

その後の武田先生の特別セミナーの間も、とても静かに隣の部屋で私と過ごすことが出来ました。



そして、その夜もとても熱い内容のミーティングで盛り上がりました。その中で隆久先生が、「簡素生活は最高のエクセレントな生活でないとできないのだ」と話をしてくださったことに本当に深く感動しました。今まで深く理解もしようとせず言葉づらだけで使っていた自分が恥ずかしく思いました。どうしたら、もっと深く理解できるのか・・・？との問いに「まず声に出して、読むとその響きが自分の中に入ってくるんだ」という紺谷さんの体験をお聞きして、早速私もやろうと思いました。

私はこのツアーに参加させて頂いて、大いなるところとつながっているプログラムの中で子どもの成長変化がなんとすごいものなのか、を目の当たりに感じました。そして、親の成長が子どもの成長につながっていくのをより深く実感した今、普段の生活がこの平和運動につながっていけるよう私自身も身を律して、簡素生活をしていきます。我家の平和運動はここからのスタートです。本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

## 「石原将軍の墓前にて感じたこと」

廣神 花子

今回の山形旅行に参加するにあたり、私の中には解決したいテーマがありました。まず一つは、頭でばかり考えて、中身（実際の行動）が伴わない自分と決別したいということ。「幸せ」に生きるために、目標・目的を持って生きていきたいけれど、一体、どうすればこの空っぽの自分が変わることができるのか、よくわかりませんでした。

私が参加させて頂いているこの勉強会のテーマである「世界の絶対平和と全ての人の完全幸福」という願いは、本当に心の底からそうなってほしい、そうなるように進むべきであると感じているのですが、その気持ちも行動が伴わないただの理想であったように思います。本当にその願いが叶うのか、どこか疑っていたのかもかもしれません。

この旅の最初に、石原将軍の新墓所にまずお参りさせて頂き、皆で声を合わせ、「南無妙法蓮華経」と三度ゆっくりと朗らかな声で唱えた時に、何か不思議な気持ちになり、今まで感じたことのないような、一体感を味わうことができました。それが、石原将軍の平和思想を勉強する同志の皆様との一体感だったのか、天に気持ちが通じた一瞬だったのか...とにかく、私の中にあつた疑い迷う気持ちがなくなった瞬間でした。続いて、旧墓所にもお参りをさせて頂き、ますます私自身の持っていた小さな悩みが消えていくような感覚を味わいました。丘の上にある墓所へと続く木立の中の細道は、

清々しい空気が漂い、踏みしめる地面は、無数の木の葉が積もり土と一体化し、柔らかい天然の絨毯のようにふかふかと、歩を進めるごとに心地よく、私たち一行を優しく受け止めてくれました。

その夜の勉強会の席では、「私（個人）の簡素生活が、どう法華経・日蓮・石原將軍の平和思想の目指すものへと繋がっていくのか？」という、お聞きしたかったもう一つのテーマについても、薩摩さんからお答えをいただきました。

「君は何故ここにいるのか？」

そう問われた時に、私の意志で何もかも決めて、私が道を選んで生きている。と、思い違いをして、ずっと過ごしてきたということにはっと気づかされました。私自身の気持ちや意思など、とても小さなもので、全てはもっと大きな天のプログラムの中で生かされているのが、この命なのだと気づいたのです。

個人の簡素生活が天に繋がるのかどうかという疑問など、本当は始めから抱かなくてもよい疑問であり、全てはあらかじめ天と繋がっていて、正しく自分の繋がっていくべき方向を理解していれば、その行動の全ては既に天と繋がっているのだという、思考の転換ができました。



「中身が伴わない自分と決別する」、「空っぽの自分を変えたい」というテーマも、抱く必要のない迷いや悩みであり、ただ私は、天（正しいもの）を信じて、その一瞬一瞬、自分が今できる精一杯のことを行っていけばよいとわかりました。幸いにも、ありがたいことに、私にはハピネスという学びの場があり、隆久先生という、導いてくださる師がいます。ここにいさせていただけのご縁も、天のプログラムであると思えば、私がこの平和運動に参加していくこと、世界の絶対平和と全人類の完全幸福を信じるということは当たり前なことです。

石原將軍の墓前で感じる事ができた一体感も、正しい自分であり続けることで、どこにいても常に持続できる感覚となるのだらうと思います。そのような望ましい世界で生きることができる、天とより良く繋がってられる私になろう...と気持ちを変化させる事ができた、本当にありがたく有意義な旅行となりました。来年、ふたたび墓参させていただく時には、さらに成長し、より深い幸せを感じられるよう、日々を過ごしていきます。ありがとうございました。

## 「永久平和のすごさ」

辻 歌代子

8/15日は終戦記念日であると同時に、隆久先生が一番師としていらっしゃる石原莞爾将軍の命日で、今回、私達は石原将軍のお墓参りを兼ねて、武田邦太郎先生のお話をうかがえる機会を持って山形に皆で参りました。

将軍のお墓は静かな林の中にあり、あぜ道の草を踏みしめる音。木々のやさしい香り。さわやかな頬をなでる風。やさしく包み込まれる不思議な体の軽さを覚え、疲れがとれ、心身ともに癒されました。お墓に刻まれた「永久平和」。大きく書かれていました。

隆久先生とご一緒させていただく旅行は、期待している想像以上にすばらしい事がおこり、うれしさや驚きを何回も経験させてもらっています。今回も、私達が庄内に到着する1時間くらい前までは、大雨で交通がマヒする位の天候でしたが、私達グループの飛行機が到着すると快晴。さわやかな風までも迎えてくれました。まさに、奇跡です。

武田先生の永久平和の実現のお話。熱い想いの歴史ある一言一言。重みのあるお言葉が、胸にぐっときます。同志としてずっと初期からお仕えされていたという鈴木様。82歳というのに若々しい。どんな苦しい事も、石原将軍の最終戦争なしに世界がひとつになり、世界が平和になる、この事だけに夢をみて、現実に実現することを描き、生涯をささげたさわやかな態度は、光輝いてみえました。隆久先生も、生涯かけて永久平和実現のため、熱い情熱があつてのすばらしい神々しい一瞬一瞬の輝いた生き方で通してこられた事がつながって感じました。

私は、隆久先生のお陰で、美健幸サロンを子供らと共に和歌山で経営させてもらい、この環境にお客様は、私に「最高に幸せやね」と、言ってくれます。私の今の幸せも、隆久先生に細やかに教えていただいたお陰です。

今回、将軍の墓参りに参加させてもらった事の重大さを思うと胸がドキドキしてしまいます。私の命の役割に導かれて使って頂ける事は、最高に幸せです。私はどんな時も隆久先生に教わり、永久平和実現の達成の時まで、共に行動させていただきたいと心から思っています。



ゆらぎない意志と熱い想いが自分の中にこみあげてくるのを感じます。日々、ゆとりをもって時間をつかえるため、簡素生活に心がけ、改善します。

正しい情報を伝える練習をし、意識を高め、今、なにが有意義なのか、教わりながら行動、努力し続けます。

来年の8月15日、石原将軍の生誕120周年。この清らかで尊い聖地、庄内の石原将軍のお墓の前で、和歌山から10人の同志で参加できるよう、熱い想いを語り続け、行動をおこす事を誓います。

## 石原将軍の墓参と決意

風当 一朗

石原将軍の命日に、ハピネスのお仲間と将軍のお墓をお参りさせていただきました。新旧二つのお墓をお参りしましたが、いずれもうっそうとした木立の中で、泰然として私たちを見守っておられる将軍の姿を感じながらの墓参でした。その後、将軍から直接の薫陶を受け、そしてひたすら実践してこられた武田邦太郎先生・鈴木和子さん・菅原さん達のお話を伺うことができました。信じる事、そして実践することの素晴らしさ、そしてその実践を通じて確信が深まってゆく姿に感動しました。

私は、昨年、自らの健康度がアップし、非常に爽快になる体験をしました。その体験をきっかけに、私のまわりの人達の健康をサポートする活動を続けています。隆久先生のご指導のもとに、大変貴重な経験をしています。その実践の中で、活動することの素晴らしさや喜びを感じています。そして、その喜びが深まることも実感しています。私の周りの人達からも、少しずつですが私の志を理解し、サポートしてくれる人が増えています。私は、これからの残された人生を、神様プログラムを信じ、実践して行く決意です。

幸い、私の最愛の妻も同じ志で頑張っています。二人で協力しあって精進する決意です。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。



今、丁度オリンピックの真最中です。金メダルをとり表彰台の上で歓喜に一杯の姿がテレビに映し出されています。私の今生が終わる時、この表彰台の上での歓喜、いやそれ以上の歓喜と満足感に満たされたものになりたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

## 決意を新たにしたお墓参り

風当 律子

今回の山形、石原莞爾先生のお墓参りは、私にとって楽しみでもあり少し緊張もしていました。

世界の平和を願って、その実現のために入植された庄内、その地を実際に訪れる事が出来、本当に感謝しています。命日である八月十五日に、新しいお墓と、また以前からのお墓にお参りして、「世界の絶対平和と、全ての人の完全幸」への思いを新たにしました。

古いほうのお墓へ行く細い道は、本当に心が清められるというか、ただただ、「世界の永久平和」を祈る心で静かになりました。大いなる愛に見守られているようで、安らかでした。今、この時代、この日本に生きていて、今日ここにいる事のご縁、導きを思うと身が引き締まりました。

二日間にわたり、武田先生はじめ鈴木さん達のお話を伺う中で、身をもって実践されてきた方々の言葉は、分りやすいし、すごいエネルギーがあり惹きつけられました。

鈴木さんは「祈りは行動すること」と、おっしゃいました。感動しました。

「祈っているからこそ、やるべき事をする。行動をする。具体的になりできる。」という事かと思いました。「祈り＝行動」ということに驚き感動しました。

私は、二十歳ぐらいの頃から自分の気持ちに嘘をつく事が多くなった様でした。

幼稚園教諭という職に就きました。同期に大学卒の二人の方と、短大卒の私です。その中で二人に負けたくない、馬鹿にされたくない、知ったかぶり分ったふりをしてきたようです。保護者の方達に対しても同じで、子育てもした事もないのに、えらそうな事を言っていたのだと気がつきました。とにかく、自分のクラスをよく見られたいという気持ちばかりだったと思います。

今回庄内でお会いした方々は、どの方も誠実でした。心の底からのことばでした。

相手に対し、思いやりを持ち、誠実に生きる大切さを感じました。学びました。



私の父はもう亡くなっていますが、とてもまじめで誠実で努力家でした。母は、何事にも一生懸命で可愛い女性です。私はその両親から受けた愛情をもとに、精一杯誠実に生きていこうと思いました。ひとつずつ、相手に自分に言葉や態度が誠実であるか、真剣に考え工夫していきます。

東京へ帰ったら、離れて一人で暮らしている母に、改めて「ありがとうございます」と感謝を伝え、また日頃の不実を詫びます。これからどうしたらいいのか話をしたいと思います。

最後になりましたが、今回の山形庄内へ、夫婦で来る事が出来た事にも感謝しています。夫婦の間も、お互いに思いやり高めあっていける新しいスタートとなりました。これも大いなところのプログラムと感じました。本当にありがとうございました。

## 簡素生活と健康運動

結城 保

生誕120周年を1年後に控えて、石原将軍のお墓参りで経験したことは、特別なものでした。

墓前で「簡素生活」の石碑に触れたとき、自分自身の簡素生活は出来ているかを自問自答してみました。



6年半前に大腸がんを患い、健康保険のお世話になりました。

医療保険の抜本的な改革が叫ばれる程の財政難の時にあって、私の病気が「保険料の負担料率アップ」や「自己負担率アップ」の原因を作ってしまった一人として「健康でいる事は義務」と知りました。

私のがんは、ステージ と進行性がんでしたが、ハピネスで隆久先生に基本的な健康の原理原則を学び、食生活の改善を中心とした体質改善のご指導を頂いたお陰で、術後5年の検査では「ポリープのかけらも無い、当分の間 検査の必要もなし」と医師のお墨付きを頂き看護師さんを驚かせたほどでした。

この体験が契機となり元気になった私は、家族の健康、友人の健康が気になるようになり、健康運動（食生活等の生活習慣改善による体質・気質改善）を行う代理店を目指すようになりました。

墓参の後に幸運にも武田邦太郎先生のお話しを伺う機会に恵まれました。

この席では、戦後間もない頃に石原思想の実践のために西山地区に入植された鈴木良子さんの体験話は代理店を目指す私にとって大変衝撃的でした。当初の入植者はわずか3～4人、食物の生産には向かない砂地で、しかも開墾するというのに鍬さえ無いと言う状況からのスタートだったと聞きました。

健康運動は健康の為の意識改革を促す啓蒙運動の一面があり、理解を得るまでに時間を要することが少なくありませんが、鈴木さんの体験に比べればなんと恵まれていることでしょう。鈴木さんの体験に勇気をいただいたこの上は、恵まれた情報・指導・応援を充分活用し、私自身の、家族みんなの健康体験を語り、健康運動を推進しスピードを上げていきます。

そして「石原思想の永久平和の到来を信じているだけです」とおっしゃる鈴木さんに続き、健康運動の実践と代理店活動が簡素生活の実践と心得、その延長線上に永久平和があると確信し健康運動の推進を誓います。

ありがとうございました。

## 簡素生活の実践

近藤 幸雄

石原莞爾將軍の命日である8月15日から3日間、石原將軍の眠る山形県遊佐町へハピネスグループで墓参しました。初めて見る墓は想像していたよりも大きな墓でしたが、土盛の上に墓標があるシンプルな構造でした。周りの自然と一体となって包む優しさと爽やかさを感じました。

その後、西浜公民館で武田邦太郎先生はじめ地元の方々の話を聞きました。武田先生が、日本が犯した過ちを正視し東アジア国家連合を作り協力すべきと話されました。東アジアの国々が共存し、共に繁栄できる素晴らしい方法だと感じました。私の兄弟の家族の中には韓国籍の人がいます。お互い遠慮しながら過去の話題を避けていたので、今まで東アジアの歴史、未来について話した事はありませんでした。これからは、相手の側から見た日本の姿を受けとめ、理解を深めていく必要を感じました。永久平和実現へ一緒に行動する仲間となる様、理解を深めていきます。

石原將軍存命中、遊佐で記録撮影時にレフ版を持って現場にいたという鈴木さん、昭和2年生まれとは思えぬ程颯爽と行動されていた事が印象的でした。永久平和の実現を信じ、全託の気持ちで生き、実践すると予想も出来ない成果が得られる事を聞き、自分も役割を信じていたからでしょう。私もこのような生き方をするぞと決意しました。

8月16日の夜、感想を書こうと机に向いましたが、いくら考えても筆が進まず自分の言葉が見つかりません。心に感じた事が文章に出来ませんでした。悔しいが自分の位置がよく理解できました。なぜ出来ないのか自分の中で考えました。怠け心、無関心…。これらを取り除き、本当にやらねばならない事を見つけ、やり続けなければならないと。

私は製薬業界で新薬を開発してきました。2006年にうつ病になり、8ヶ月間休職しました。その間に健康の大切さを、身をもって気付きました。健康を損なうと、自分が苦しむだけでなく、家族や周囲の人に迷惑をかけてしまいます。回復にかける労力は多大なもので、簡素生活の対極にある状況です。うつ病になった原因の一つには自分なりに価値の無い考え方にに基づき行動していた事でした。これらを捨てるのも簡素生活への道です。

おかげ様で看護師として医療に携わっていた妻の強い支えに加え、隆久先生の言葉が力になりました。「心に夢と希望と愛を持って」というメッセージは薬以上に身体に響き、大きな影響がありました。心の問題の解決は、お金や薬ではなく、心そのもので解決していくのが大切なのだという事を気付かせていただきました。

この3日間で触れ合った石原将軍と縁があった方々の体験、言葉から夢や希望や愛を語り伝える事が私達夫婦の役割であると確信しました。うつ病も自分を成長するために与えて頂いた貴重な課題です。私は、病気克服から得た経験を基に健康で幸せな社会を築く行動を通じて簡素生活を実現します。

## 山形研修に参加して

近藤 富紀子

石原莞爾将軍のお墓参りに仲間と参加させていただきました。出発前日には大雨で高速道路が通行止めとなるほど大変だったそうですが、私達が乗った飛行機は、黒い雲の中から光が差し込み、光に導かれている様に山形庄内空港に着きました。

その後、武田邦太郎先生と合流し、一緒にバスで石原将軍の新旧二つのお墓参りに行きました。まず、新しい方のお墓へ向かいました。始めて見るお墓は、土盛の大きなお墓でした。お墓の横の石碑には都市解体、農工一体、簡素生活と刻まれてあり、裏にはこの三点を実現する事が永久平和につながると書かれていました。これを見て、私には何が出来るだろうかと自問自答しました。

古い方のお墓に行く途中へは、バスを降りて林の中を歩いて行きます。お墓の前ではマイナスイオンを多く感じ、安らかで幸せな気持ちになりました。その後、お墓の近くの西浜公民館へ移動し、武田先生、その他先輩方に会いました。志を持って生きてこられた方は、実年齢よりも10歳以上若く見え、肌に艶があってとてもステキでした。一人だけではなくみんなが同じように見えたので驚きでした。その中の一人、遊佐町で石原莞爾將軍の教えを実践されてこられた鈴木さんの体験談には大変感動しました。終戦前後の大変な体験をされたにもかかわらず、「命の危険を感じながらも仏様に助けられ、導かれてここまで来ました。石原將軍や武田先生のおかげです。祈って信じ切ることです。」と言われた時に、祈って信じきる事で奇跡が起こるのだなと思いました。

私は、以前、看護師として医療に従事していました。多くの人の死に立会い、「人生とは何だろう、死とは何だろう。」と悩んだ時期がありました。丁度その頃、私は、気管支喘息の改善をきっかけとして、隆久先生に出会いました。先生と一緒にいろいろな活動をさせて頂く中で、石原將軍や法華経についての話を下さり、悩まなくなりました。そして志を持ちながら人生を歩めるようになりました。その当時、なぜそのようになったよくわかりませんでしたが、振り返ってみると、私も大いなる存在が導いて下さったのだなあとと思います。ハピネスに出会い、運も良くなりました。素直になり、信じ切って、何が何でも人のお役に立てるように行動していきます。この研修の中でも隆久先生や薩摩さんにたくさんの事を教えて頂きました。

私の苦手な原稿を2時間以内に提出するという課題を頂きました。普段の私には苦手な事でしたが、やると言った課題をやり通す事、時間を守る事の困難さと同時に約束を守った時、自分の中に沸き立ってくる達成感も感じました。

また、借り物の言葉を捨て、自分の体験を通じて感じた事を自分の言葉で表現する事の重要性に気付きました。相手に喜んでいただいたり、褒めてもらえたりできるように、始めにゴールを頭に描いて行動する事が大切という事を学びました。

これからの私の簡素生活の実践として三つの言葉を意識し、夫婦一緒にまず、家庭の中から行動します。

山形研修に参加して本当に良かったです。ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。



# 私に必要な信仰する心

太田 明子

今回の旅行で恥ずかしながら初めて気づいたことがありました。

それは、私にはこれまで信仰する心がなかったということです。

以前、隆久先生から「貴女の世界観は？」と訊かれた時に何も答えがなかったことを思い出し、世界観も信仰もない者が、人に何かを伝えられるわけがないと...、本当にそう思いました。

健康運動、平和運動をして行こうと言いながら、これらが欠けていることは本当に致命的であり、それだけでなく大人として恥ずかしいことだったと思います。

今回、私の中で「信仰する」が1つのキーワードとなりましたが、掘り下げて考えてみると、私にとって信仰するとはどういうことか、何がどうなったら、私は何を信仰していると言えるのか、まだまだ自信はありません。

子供の頃、毎日夕食前に仏壇に白飯を供え、般若心経を唱えていた祖父の姿を思い出しました。その行為について、何か説明された記憶はありませんが、お供えした小さな白飯は子供にとってはままごとのようで魅力的で、いつも食べたいと思っていましたが食べさせてもらえることはなく、必ず祖父が食べるものでした。

今思えば、あれは日々の糧、世の中への感謝の象徴であり、日課として毎日同じ時刻に神への、また大いなる者への尊敬と感謝を確認し自分に刻み込むという、ひとつの信仰の形だったのではないかと思います。

祖父の亡き後は、祖母がその行為を受け継いでいましたが、きっとようやく家族の幸せを祈っていてくれたのでしょう。

そのような姿を思い出しながら、私はこれから毎日寝る前に10分間、法華経、平和三冊本を声に出して読むことを始めようと思います。

そして、その日にあったこと、出会った人、関わって下さった計り知れない人々と神さまの計りに感謝することを日課にしようと思います。

そうすればきっと、法華経や昭和革新論にかかっていることの理解を深め、心で感じ、信じきる心が育っていくのではないかと思います。



## 「最終戦総論から見た現代の簡素生活」

薩摩 和男

昭和15年5月に発表された最終戦総論には、新しい人類社会の見本を建設するために「都市解体・農工一体・簡素生活」の三原則を実現していく必要があるとされています。個人を出発点とする実践を考えた場合、まずは簡素生活に対する取り組みを考える必要があります。残りの二つは、社会全体の総意が形成される中で実現されて行くものだからです。

「簡素生活」という言葉から最初に連想されるのは、省資源・省エネルギー型の節約型ライフスタイルです。しかし最終戦総論を読み進むにつれ、石原莞爾の言う簡素生活とは、そのような単純なものではないと思うようになりました。

石原将軍の生活が極めて質素なものであったという話は、武田先生を始めとする存命中の将軍をご存知だった方から良く伺います。将軍が、秋田県の石川理紀之助翁の遺跡を訪ね、翁が山中の四畳半ぐらいの草屋に単身起居し、高い精神生活を営まれた様子に接して無限の感にうたれたと言う記述もあり、将軍の晩年の生活もそのようなものであったのではないかと推察します。

現代の私たちが、山中の四畳半の草屋に起居するのは、あまり現実的とは言えません。しかし生活習慣病の蔓延や、地球温暖化という側面から見ても、私たちの生活全体をもっとシンプルなものにしていく余地は十分にあるように思います。そして、余分なものを削ぎ落としていく中で、見えなかった豊かさが現れてくる可能性も感じます。

「豪邸に住み、大きな車を乗り回す」というのは一つの豊かさかも知れませんが、しかし、詩歌を詠んだり楽器を演奏したり、お茶や活け花にいそんだり、自家菜園で採れた野菜を家族全員で調理したりする中で培われる精神的な豊かさに目を向けるのが、石原将軍の言う簡素生活への入り口ではないかと思うのです。

私事になりますが、私は昨年体を壊しまして、玄米食による食養生を始めました。宮沢賢治の詩に「一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ」とありますが、ほとんどそれと同様の簡素な食生活を続けています。体は健康を取り戻し、精神的には鋭敏さと落ち着きが増してきたようです。



食生活を起点とした簡素生活を体験した1年半でしたが、たくさんの気づきを得た貴重な期間でもありました。支えてくれた家族や、気遣ってくれた友人たちに対する感謝の気持ちが心の中に満ちて来るのを感じました。私の健康は私一人のものではなく、家族や社員を含めた大勢の幸福とつながっているのもわかりました。逆に、社員やその家族を含めた多くの人の健康が、私自身の幸福とつながっている事にも気づきました。

話を広げれば、日本の平和はもちろん、世界の平和が自分自身の幸福とつながっている事も改めて発見しました。これまで「世界平和」と言うと、どこか他人事のお題目のような感じもありましたが、自分自身の幸福の同一線上にあるものだという事を実感しました。

最終戦総論では、世界を二分する決戦戦争について「王道と覇道の最後の決戦が行われる」と記述されています。当初、私はこれを「王道と覇道が同じ平面状で争う」という読み方をしていました。しかしどうも腑に落ちない感じがぬぐえず、山形行きに先立っての勉強会で隆久先生に質問した結果、「絶対とつながった王道が、相対世界にある覇道を包み込み、自然に飲み込んで行く」と読むべきであることに気づかせていただきました。

石原将軍は「戦争史大観」の中で、「八紘一宇といいながら弱者から権利を強奪せんとし、自ら強権的に指導者と言い張る」と当時の日本のあり方を批判し、北清事変当時の柴大佐による北京統治が如何に仁徳に満ちたものであり、中国の民衆に愛され、支持されたものであったかを、長文を割いて述べています。

「大佐が警務長官となるや、米倉の米を廉売して飢餓を回避し、兵を厳しく律して治安に努めた結果、露・仏・英の駐屯地域から民衆が争って日本の駐屯地へ避難して来た。街は栄え、柴大佐は実は中国人だという噂が住民の間に流れたくらいで、大佐が職を去って日本に帰る日は、多数の貧民や労働者が、手に粗末な餞別を持って集まり別れを惜しんだ・・・」

「王道とは如何なるものか」と問われた将軍が、「大なる者が、小なる者に仕える心だよ」と答えたと聞きました。将軍の頭の中にあつた「王道による東亜の統一」・「世界平和の実現」とは、柴大佐のような仁政を通して、自然に人々がひとつになっていく道のりの彼方にあるものではないかと思います。

武田先生から頂戴した小冊子の末尾に、石原莞爾の16ミリ映画の中で「日本は蹂躪されてもかまわないから、われわれは絶対、戦争放棄に徹して生きていくべきです。ちょうど日蓮上人が竜の口の刑場に向かっていくあの態度、キリストが十字架を背負ってゴルゴダの刑場に向かっていくあの態度を、わ

れわれは国家としてとらなきゃならない」という発言をしているという記述を見ました。宇宙を貫く大法則・大義を心の底から信じ、「人類全体のために身を投げ出す覚悟を、日本人が国全体として持つこと」を訴えていることに凄味すら感じ、大きな衝撃を受けました。

今回の山形ツアーでは、満州における東亜連盟の運動に参加し、日本に帰ってからは「農工一体」の具現化に向けて、鍬ひとつで荒地の開拓に立ち向かった鈴木和子さん達のお話を聞くことが出来ました。いずれの方々も、おだやかで幸福に満ちた表情で、波乱万丈の人生を歩んでこられた印象は微塵もありません。石原莞爾の思想を頭で理解するのではなく、体ごと將軍を信じ飛び込んで生きてこられた姿に、これが「全託」ということなのかと、法華經の竜女を見るような気がしました。



私たち一人ひとりが、世界の平和や人類の調和に心を合わせながら、身を慎み、与えられた職務に精励して日々を送ること。更に言えば、石原將軍やその向こうに存在する日蓮、日蓮のはるか彼方に見える法華經の世界まで意識を広げ、世界平和への祈りの中で生活を送ることが、石原將軍の言われる簡素生活の本質ではないかと思うのです。

以上

## 来年こそは、私も行きます！！

今回の墓参ツアーには、残念ながら参加できなかった方々からも、来年の生誕120年祭に向けて、熱いメッセージが寄せられてきました。一部(抜粋)をご紹介します。



私も母となり、子供には幸せであってほしいと願っています。そして、歩む未来は平和であって欲しいと。平和であるためには、私にさせていただけるとはどんなことか。それが私の「志」のひとつではないかと感じました。

石原先生が唱えられている「農工一体・都市解体・簡素生活」で、私ができることがあるはず。まずは自分の周りを見直し、簡素生活をするには何ができるかを考え、意識し、行動します。

大阪府・齊郷 佳代子

世界の絶対平和と人類の完全幸福の実現。その一員として必ず社会のために役立つ人間になることを志として持ちながら、私にしかできない役割を、日々、果たしていくべきだと思っています。2人の子を持つ母として、子育て世代への正しい食生活の大切さを伝え、また、家族・親族みなが高齢でも健康でいることの大事さを伝えていくこと。私の周りの人たちに、健康で美しく、幸せに生きる社会を創ることを、使命を持ってやり続けます。

滋賀県・村上 陽子



本当にすごかったんだろうなあ～。私も行きたかった！...という思いでいっぱいです。来年は、石原莞爾先生の生誕120年、没後60年のすごい年。ぜひとも、式典や墓参ツアーに、たくさんの同志と共に参加させていただきたいと願っています。

愛知県・山本 尚美

参加された方々から、たくさんのお話を伺いました。それを通じて平和と心をつなげることの大切さを改めて感じました。私は光の世界に生き続けます！ただのエコではない、簡素生活ができる自分に、もっと、もっと、なるためには、心豊かになります。感謝の世界で活動し続けます。

愛知県・久保 正美

23歳の頃、隆久昌子先生と出会い、「世界の絶対平和と人類の完全幸福」という言葉を初めて耳にしました。その頃から隆久先生はずっと「貴女が幸せでなければ世界の平和はないのよ」と私に語りかけてくださいました。自分の幸せとは、家族や社会の幸せとは何なのか。そう考えて、隆久先生が「まごころの回復運動」として産み出した手づくりカルチャー「山の幸染め」を私のライフワークにしました。世界の大調和が必ず実現すると信じて、世界中の子供たちに安心して未来を語れるようになります。

愛知県・島川 資子



隆久先生のもとで、平和運動の勉強をさせていただいている凄さに、運の良さと感謝の気持ちがいっぱいです。今回のツアーのお話も、多くの方から、たいへん奥深く、興味深い、意義あるセミナーであったと伺いました。来年のツアーには、私も必ず参加します！

岐阜県・芳賀 正子

## 新墓所の石碑に刻まれた文章

〔石碑・1〕

### 永久平和

都市解体      農工一体      簡素生活      石原莞爾

「石原莞爾は一九二五年(大正十四年)最終戦争論を発表し 一九四九年(昭和二十四年)に死ぬまでの彼の一切の思想 行動は この歴史観に基づいていた」

満州事変と日華事変の処置 軍備計画の樹立 日本最初の国家経済計画の立案 東亞連盟運動の指導 太平洋戦争の阻止運動から 敗戦後の武装完全放棄論まで 彼の思想と行動のすべては最終戦争論から導き出されたものであった 実弟 石原六郎

最終戦争論で近い将来戦争はなくなると断定した石原先生は 全人類の熱望する永久平和の時代が 近代科学文明を駆使したところの「民族協和共存共栄」の社会であるとし その第一歩として戦後日本の進路を「都市解体」「農工一体」「簡素生活」の三目標に要約され この目標達成こそが最終戦争を回避して 永久平和社会に到達し得る最良で最短の道であると教示された

われらがこの選択を誤った場合 最終戦争は必然となり地球上は大惨禍の坩堝より時代文明の建設という想像を絶する苦難の道を歩まねばならぬとされた

二者択一は懸って私たちの双肩にあるといえる



〔石碑・2〕

私はただ仏さまの予言と

日蓮聖人の霊を信じているのです

石原莞爾



フォトメモリー



2008年8月25日  
編集：薩摩 和男 構成：紺谷 和久  
発行：隆久 昌子(ハピネスグループ代表)  
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6-74  
Tel.03-3260-8611 Fax.03-3235-3102  
E-mail info@happiness.gr.jp